

ジャーナリズム・メディア演習 I

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
401	ジャーナリズム・メディア演習 I (田中幹人)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	田中 幹人
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ハイブリッド・メディアのメディア研究方法論

授業概要 Course Outline

マス／ソーシャルメディアが複雑に絡み合った「ハイブリッド・メディア」の時代になって15年以上が経ちました。私たちが接するメディアの変化は、私たちの生活、ひいては社会のあり方に影響を与えています。当ゼミでは、このようなハイブリッドメディアの時代におけるメディアの機能、さらにはそこで求められるジャーナリズム規範についての研究を行っています。

この「ジャーナリズム・メディア研究I」では、研究に必要な、基礎的な方法論の修得を目指します。

授業の到達目標 Objectives

個別課題やチーム課題の実施を通じ、研究のうえで求められる基礎的方法論を修得する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- ・文献の蒐獵と熟読。
- ・課題分析の実施。

授業計画 Course Schedule

第1回：今学期の学習内容について
オリエンテーションを行います。

第2回：内容分析の基礎1
メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。

第3回：内容分析の基礎2
メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。

第4回：内容分析の基礎3
メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。

第5回：質的テキスト分析の基礎1
メディア研究手法の基礎である「質的テキスト分析」について学びます。

第6回：質的テキスト分析の基礎2
メディア研究手法の基礎である「質的テキスト分析」について学びます。

第7回：質的テキスト分析の基礎3
メディア研究手法の基礎である「質的テキスト分析」について学びます。

第8回：量的テキスト分析の基礎1
メディア研究手法の基礎である「量的テキスト分析」について学びます。

第9回：量的テキスト分析の基礎2
メディア研究手法の基礎である「量的テキスト分析」について学びます。

第10回：量的テキスト分析の基礎3
メディア研究手法の基礎である「量的テキスト分析」について学びます。

第11回：チーム課題分析1：内容分析
5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第12回：チーム課題分析2：質的テキスト分析
5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第13回：チーム課題分析3：量的テキスト分析

5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第14回：課題発表プレゼンテーション

チームで分析を行った結果を発表します。

教科書
Textbooks

- ・課題内容に応じて適宜指定します。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	課題の実施・提出状況に応じて評価します。

備考・関連URL
Note・URL

履修者の傾向に応じて、課題内容を変更する可能性があります。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

ジャーナリズム・メディア演習 I

2026

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
402	ジャーナリズム・メディア演習 I (土屋礼子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	土屋 礼子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

近現代史におけるメディアとプロパガンダ、およびジャーナリズム

授業概要 Course Outline

近現代の日本および欧米におけるメディアとジャーナリズムの発達の経緯を理解し、検閲制度をはじめとする政府との関係、政治家や政府機関などとジャーナリズムおよびメディアとの関係、世論を動かすためのプロパガンダという思想がどのように展開してきたかを、実証的に学び議論する。また、実際にメディアやジャーナリズムに関係した人々にインタビュー調査や資料探索を行ない、メディアの歴史や、メディアに対するアプローチのしかた、メディアの分析のしかたに関する知見を深め、年度末には各自が卒論テーマを見いだせるよう研究をすすめる。なお、2026年度は、女性の記者、ジャーナリストのOBにインタビュー調査する予定である。

授業の到達目標 Objectives

メディアとジャーナリズムに関する基本的知識を学ぶだけでなく、それを活用し、自分で資料を探索し読み解き、思考する能力を養う。また実際にインタビュー調査を行う力量を育成する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第一回：オリエンテーション
第二回～第七回：英語文献講読
第八回～第十三回：日本語文献講読
第十四回：インタビュー調査の目的及び計画の説明と準備

教科書 Textbooks

初回の授業には、藤竹暁編著『図説 日本のメディア』(NHKブックス、2018年)を読んだ上で、持参すること。
その次からは、開講時に配布する英文テキストを読む。
以降は授業中に指示する。

参考文献 Reference Books

関連文献については、随時紹介する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	二回ほどレポートを指示する。
平常点評価 Class Participation	70%	英語文献及び日本語文献の講読の際に行う報告、発言、議論を評価対象とする。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

基本的に教室での対面講義を行う。積極的な質疑応答、議論を評価します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

ジャーナリズム・メディア演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
403	ジャーナリズム・メディア演習 I (中村理)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	中村 理
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

内容分析を中心に用いたメディア・メッセージの実証研究（演習I：ヒューマン・コーディング／演習II：コンピュータ・コーディング）

授業概要 Course Outline

本演習は、内容分析という手法を使ってメディアの送り出す情報を実証的に分析することを目標にしています。

3年次のこの演習では、そのための技法を習得します。

あなたはメディアを通じて得る情報に疑問を持ったことはないでしょうか。たとえば、原発報道はどういった経緯を経て今にいたっているのか、経済問題に報道は一貫した姿勢で対処してきたのか、CMやドラマにあらわれるジェンダー観は時代とともにどう変わってきたのか、SNSはニュースにどう反応するのか、などです。こうした疑問のもととなる情報（メッセージ）は、日々、新聞やテレビ、インターネット、映画や文芸作品などから大量に発信されています。そこにはどういった特徴や傾向があり、その背後には発信者のどういった情報選択があるのでしょうか。

本演習では、こうしたあなたの興味を分析していきます。分析の主題は政治でもジェンダーでも文化でも構いません。また、対象は報道でも映画でもコマーシャルでもSNSでも構いません。マス・コミュニケーション上あるいはジャーナリズム上の興味をもって、メディアに流れる情報をぜひ実証的に・科学的に分析してみましょう！

そのために、本演習では内容分析という手法を学びます。内容分析とは、単に内容を分析するという抽象的なものを指すものではありません。どういう手順で何をすることが決まっている、ある科学的な分析手法の名称なのです。この内容分析では、メッセージの内容をコード（記号）化して分析します。たとえば、選挙の争点を「経済」や「安保」といったコードに分類したり、登場人物を「政治家」や「専門家」といったコードに分類したり、論調を「ポジティブ」や「ネガティブ」といったコードに分類したり、です。そして、それらコードが何回あらわれるかを数えるなどし、発信される情報を量にして、情報の特徴をとらえていきます。こうすることで、流れる情報を客観的に扱えるようにします。

コード化には主に2つの技法があります。当演習では（1）学部3年次前半（春学期）にヒューマン・コーディングという技法を、（2）後半（秋学期）にコンピュータ・コーディングという技法を学び、4年次に卒業研究に取り組みます。内容分析は、マス・コミュニケーションやジャーナリズム研究によく使われるほか、企業が顧客のクチコミを分析してマーケティングに役立てることに利用されています。この手法を使って、ジャーナリズム、マス・コミュニケーション、あるいはメディア上の課題やあなたの疑問に挑みましょう。あなたの興味とやる気を、ぜひ具体的な形にしてみてください！

この演習では、一つの主題や目標を複数の受講者が共有し、チームで議論をしながら協調的に作業を進める活動を主体にしています。これにより、専門性を深めるだけでなく、チームの中で目標を共有し、困難に面したときに助け合ったり責任を分担したりして解決する経験をつんでみましょう。この経験は、将来、あなたが専門課程で研究を行ったり、職場で同僚と協調的に仕事をしたりする際に必ず役に立ちます。そして、簡単なようでなかなかそうではない実証的な調査・研究というものをぜひ経験してください！これは大学にいればこそできるものです。

授業の到達目標 Objectives

受講者は

- ・実証的な調査の流れ（問題意識～仮説～調査計画～実施～結果の整理～分析～考察～結論）を経験し、その要領を学びます。
- ・分析法を習得します。（演習Iはヒューマン・コーディング、演習IIはコンピュータ・コーディング）
- ・分析力および科学的に考える力を高めます。
- ・マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、メディア上のなんらかの課題に建設的に言及します。
- ・チーム内でコミュニケーションをとりながら協動的に作業をし、課題を解決します。
- ・以上を通じ、特定の専門知識だけでなく、社会に出た際の汎用的なスキルを身につけます。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

当演習は反転授業を取り入れています。授業後は次の授業に向けた準備を各自がおこない、教室では時間と場所をチームのメンバーと共有するメリットを活かして協調学習やチームワークに取りくみます。たとえば、論文を読む際には事前に読んだり演習問題に取り組んだりし、当日に教室で発表と議論をします。チームワークではその日までの進捗に応じて次までの目標をチームが自ら立て、それを持ちよって次の授業をすすめます。

授業計画 Course Schedule

第01回：オリエンテーション

第02回：内容分析とは？ I：研究論文を読む（プレ演習の論文読解の続き）／内容分析のデザインと実践 1a：調査主題を提案する・決める

第03回：手法を学ぶ 1：内容分析の歴史／内容分析のデザインと実践 1b（チームワーク）：チームの調査目的と方法を検討する

第04回：内容分析のデザインと実践 2（チームワーク）：問いをたてる・対象をきめる・変数とカテゴリを設定する

第05回：手法を学ぶ 2：内容分析の設計

第06回：内容分析のデザインと実践 3（チームワーク）：テスト・コーディングを始める

第07回：手法を学ぶ 3：サンプリング

第08回：内容分析のデザインと実践 4（チームワーク）：テスト・コーディングをもとに計画を再検討する

第09回：手法を学ぶ 4：ヒューマン・コーディング

第10回：内容分析のデザインと実践 5a（チームワーク）：コーディング・マニュアルを完成させる I.

第11回：内容分析のデザインと実践 5b（チームワーク）：コーディング・マニュアルを完成させる II.

第12回：手法を学ぶ 5：信頼性を検定する

第13回：内容分析のデザインと実践 6（チームワーク）：コーディング結果を集計するI／コードへ依頼する

第14回：内容分析のデザインと実践 7（チームワーク）：コーディング結果を集計するII／レポートにまとめる

学期末：成果を発表する：レポートの提出と発表（15週目にゼミ発表会）

教科書 Textbooks

必要に応じて授業内で提示。

参考文献 Reference Books

必要に応じて授業内で提示。以下、参考まで：

有馬明恵『内容分析の方法』（ナカニシヤ出版、2007年）

クラウド・クリッペンドルフ『メッセージ分析の技法-「内容分析」への招待』（勁草書房、1989年）

ダニエル・リフ他『内容分析の進め方』（勁草書房、2018年）

樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析』（ナカニシヤ出版、2020第2版）

田崎篤郎・児島和人『マス・コミュニケーション効果研究の展開（改訂版）』（2003、北樹出版）

竹下俊郎『メディアの議題設定機能—マスコミ効果研究における理論と実証（増補版）』（2008、学文社）

佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』（2008、ひつじ書房）

戸田山和久『最新版 論文の教室』（2022、日本放送出版協会）

評価方法 Evaluation		
	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行いません。レポートを実施しない場合にのみ代替として検討します。
レポート Papers	30%	20--40%。半期ごとになんらかのまとめをおこないます。最終的に調査・分析の結果あるいはその進捗状況をレポートおよび発表資料にまとめたうえで発表します。その際の提出物、発表内容、貢献度で評価します。チームでレポートを執筆する場合は、授業への参加態度にもとづいた個人の貢献を勘案します。
平常点評価 Class Participation	55%	50--70%。授業への参加態度、課題・分析への取り組み、チームへの貢献をもとに評価します。各自が目的を持ち、主体的・協動的に作業することを重視します。
その他 Others	15%	10--20%。ゼミの運営や行事に協動的にかかわる活動を評価します。また、上記以外で特筆すべき事項、推奨履修科目の学習状況等も、ここに計上します。

備考・関連URL
Note・URL

<https://semi.on-w.com/>

https://x.com/nakamura_semi

研究は主に、学生であるみなさん自身が次までの課題を決めて宿題を持ちより、メンバーと議論をしながらチームで協動的に作業をすることによって進めます。理科でいえば「実験」のようなもので、机上で考えるだけでなく、ポジティブなコミュニケーションで人と協働しながら手を動かし、自分なりのデータを分析してみたいという方に向いています。これまでの主題例は最新のものも含めて関連URL記載のサイトから見るができます。

あなたはPCやプログラミングに習熟している必要はありません。苦手な方でもできる内容をこころがけてデザインしています。逆に、RやPythonでプログラミングをしたい方にはサブゼミ・卒論で個別に指導することも可能です。

ゼミ全体の流れは次の通りです。(1) まず、内容分析を使ってどういった研究ができるのかをプレ演習から演習Iにかけて学びます。同時に、プレ演習では内容分析の体験をします。(2) 演習Iではヒューマン・コーディングの手法を学びながら、それをを用いた調査プロジェクトをチームごとに実演します。(3) 同様に、演習IIではコンピュータ・コーディングの手法を学びながら、それをを用いた調査プロジェクトをチームごとに実演します。(4) 演習III～IVでは、卒業論文の作成を前提に進めます。ここではチーム内で主題を共有しながら、そのもとで一人ひとりが独立したプロジェクトに取り組みます。たとえば原発報道というチーム主題のもとで、ある学生は新聞に取り組む、ある学生はTVに取り組む、などです。それらの結果を卒業論文にまとめ、年度末に報告します。(5) 演習I～IVにかけては、並行して前後いずれかの時間にサブゼミを実施します。その中では、チームワークの補填をしたり、マス・コミュニケーション理論とジャーナリズム史、R、論文執筆法、エクセルの使い方、コンピュータ・コーディングの詳細、データ分析法といった基礎スキルを学んだりします。(6) また、各学期に2度ほど、サブゼミの時間にメディア・職業人ワークショップをおこないます。なお、プレ演習から演習IにおいてもKH Coderというソフトウェアを補助的に用い、コーディングの視野を広げます。

春学期、秋学期演習とも、第15週に発表をおこないます。

演習I以降には、プレ演習の単位を得ることで進むことができます(ただし、留学帰りなどでプレ演習の履修機会がない方はプレ演習は不要となります)。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>